

花見川区基本計画（原案）

みんなの力で

川と緑と笑顔が輝くまち 花見川区

【 目 次 】

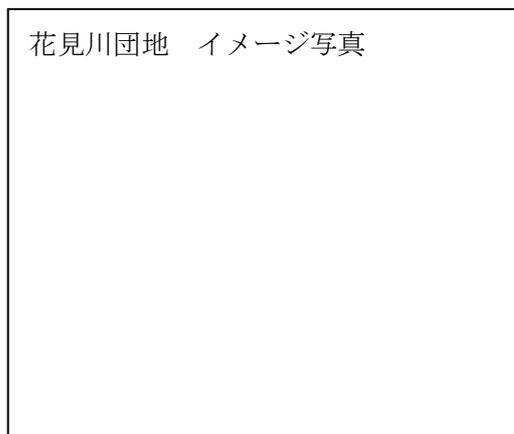
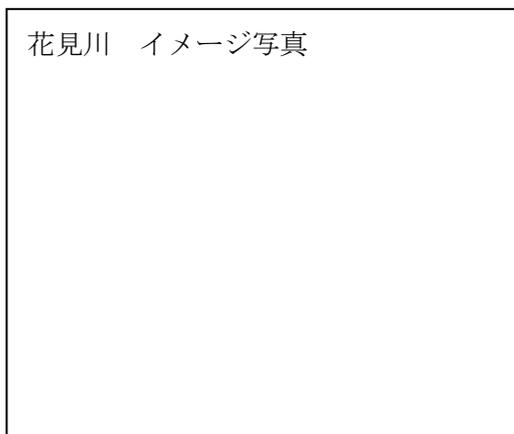
第1章	区の概況	2
第2章	現状と課題	4
第3章	区の将来像	8
第4章	施策の展開	9

平成22年11月

千葉市花見川区

第1章 区の概況

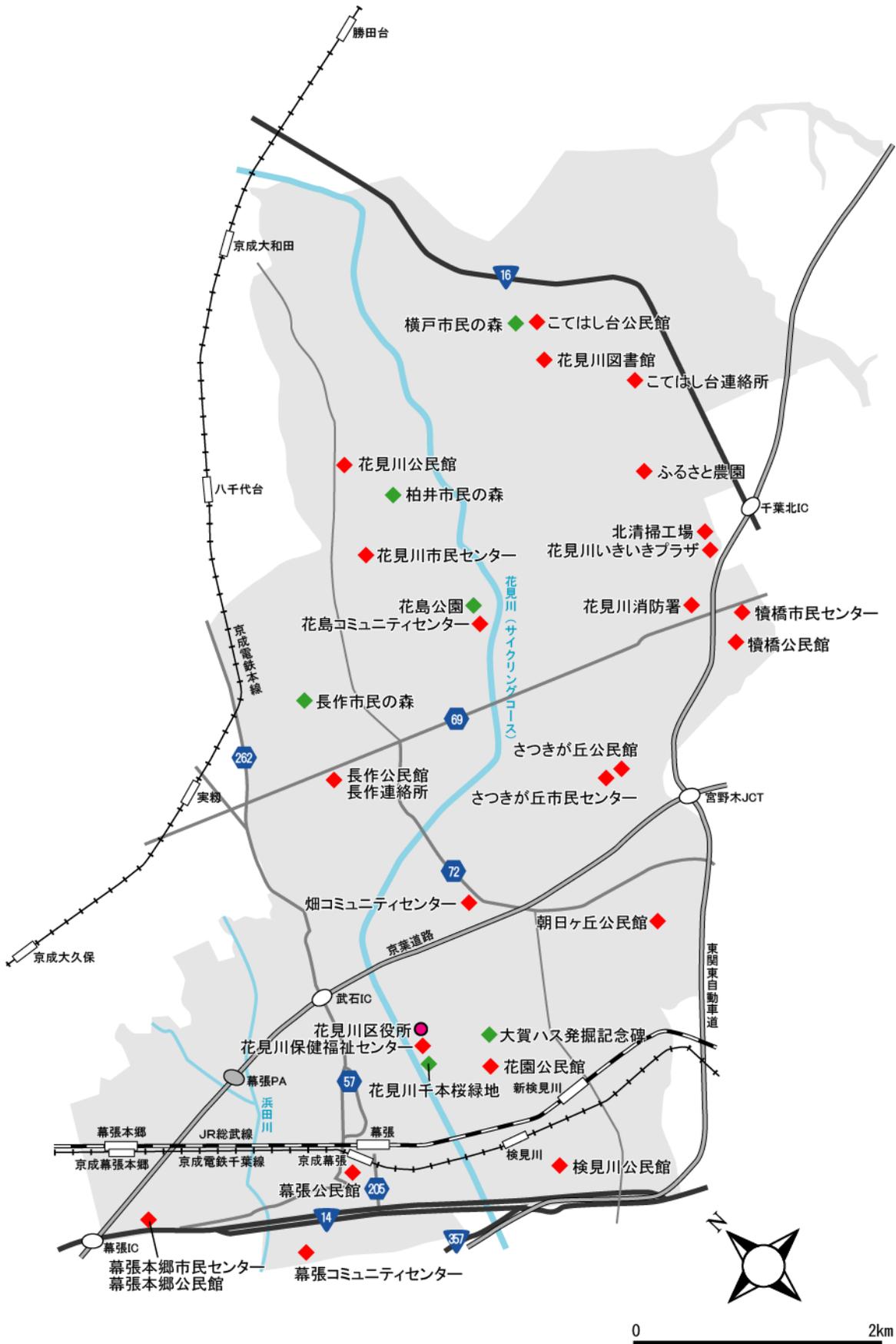
- ・本区は市の北西部に位置し、面積は34.24k㎡で、北部は八千代市、北東部は佐倉市及び四街道市、西部は習志野市に隣接しています。
- ・区域は南北に長く、その中央を、区の名称ともなっているシンボルの花見川が流下し、豊かな河川空間が広がっています。
- ・公共交通機関として、南部にはJ R総武線、京成電鉄千葉線が並行して区域を東西に横断し、また北西部には市域に沿うように京成電鉄本線が通っており、バス路線が各地区と鉄道駅とを結んでいます。また道路網は、高速交通網の結節点となる幕張I C・武石I C（京葉道路）があるほか、国道14号、国道16号、主要地方道である千葉鎌ヶ谷松戸線、長沼船橋線、穴川天戸線などが主要道路として利用されています。
- ・区の発展を振り返ると、明治時代に総武鉄道（現在のJ R東日本株式会社）、大正時代には京成電気軌道（現在の京成電鉄株式会社）が営業を始めたことに伴い、それらの駅を中心に住宅地が広がっていきました。また、戦後の日本経済復興を契機に、首都圏のベッドタウンとして、花見川団地をはじめとする大規模住宅団地の建設が進むとともに、その周辺でも宅地化が進展しました。



【人口・世帯数の見通し】

		平成17年	平成24年	平成27年	平成30年	平成33年
人口(人)		181,708	178,000	176,000	174,000	172,000
構成比(%)	0～14歳	13.7	13.6	12.7	11.8	10.9
	15～64歳	69.6	63.2	60.8	60.0	60.0
	65歳以上	16.7	23.2	26.5	28.2	29.1
世帯(世帯)		72,547	75,000	76,000	76,000	77,000

【区の概況図】



第2章 現状と課題

1 人口と世帯

- ・人口は、平成18年をピークに減少又は横ばいの傾向で推移しており、平成22年3月末現在で180,225人となっていますが、今後は減少傾向となる見通しです。
- ・住宅は、旧住宅公団などの大規模団地が多く、共同住宅が55.4%を占めていますが、持家比率は57.1%で市の平均に近くなっています。その一方で、区民が自区内で就業している割合は、市平均よりも低く、都心等へ通勤する区民の割合が多くみられ、ベッドタウンの性格が顕著に表れています。

2 土地利用

- ・区の中央を流れる花見川沿いには、野菜を中心とした都市型農業の営まれる農地や豊かな緑が残されているほか桜並木が点在し、河川の景観を彩っており、釣り場としても利用されています。
- ・区の北部から南部にかけて、み春野団地、こてはし台団地、花見川団地、さつきが丘団地、朝日が丘団地、西小中台団地といった大規模な住宅団地が造成されています。一方、千葉鉄工業団地が千種町にあるなど、住居や商業に加え、工業的な土地利用がされています。
- ・区内は市街化区域と市街化調整区域が混在しており、区域の約5割を占める市街化調整区域の大部分は農地、山林などとなっているほか、古くからの集落があります。

3 自然環境・文化～魅力ある地域資源の活用

- ・花見川の自然にどこでも触れあえるように、花見川サイクリングコースをはじめ、コース沿いには花見川千本桜緑地や神場公園かんぼなどが配置されているほか、区の公園レクリエーションの中心となる総合公園として花島公園が整備されています。一方で、河川沿いのごみの不法投棄や、不法耕作地が問題となっており、対策が求められています。
- ・区内には、農地・山林が多く残っており、自然と触れあい、共生する環境に恵まれています。こうした農地・山林は、本来の生産機能のほかに防災機能、治水機能、環境保全・自然景観の保持やレクリエーションの場の提供など、都市の緑の空間としても重要な役割を果たしています。しかし、住民の高齢化や、農業従事者の減少による遊休農地や荒地、手入れの行き届いていない山林など、荒廃する傾向にあるため、緑の空間の魅力を回復していく必要があります。

花見川サイクリングコース
イメージ写真

- ・地域の文化は、県無形民俗文化財に指定されている「下総三山の七年祭り」などが区民に親しまれており、こうした伝統行事を通してさらに郷土愛をはぐくむことが大切です。このほか、市の地域文化財に登録されている文化財も多く、地域の人々が守ってきた郷土文化を大切にしていけることが重要です。

4 こども・高齢者～少子超高齢化への対応

- ・区の少子化傾向は、市と同様に全国平均と比べても進んでおり、今後は、子育て世代などが暮らしやすく、定住できるまちづくりが必要です。特に、子育て環境の充実に向けて、保育所の待機児童の解消が求められています。同時に、近年の少子化や核家族化のほか、大規模団地で育ち成人した層の区外への転出などにより、家族の絆や地域とのつながりの希薄化が見られることから、子育て中の親が孤立しないように、地域ぐるみで子育てを支援する仕組みづくりが重要な課題になっています。
- ・区内には、小学校23校、中学校11校などがありますが、少子化に伴いよりよい教育環境の整備と教育の質の向上を図るため、学校の規模・配置を適正化することが求められており、平成18年には市内初の統合校である花島小学校が誕生しています。
- ・区の高齢化率は20.8%（平成22年3月末現在）ですが、大規模団地ではさらに高齢化が進んでいます。今後、一人暮らし高齢者や老々介護などへの支援がより重要になる一方で、貴重な知識や技能を持った元気な高齢者が地域で活躍できる仕組みづくりが求められています。

【大規模団地の高齢化率】（平成22年3月末現在）

	花見川区	大規模団地				
		花見川	さつきが丘	西小中台	こてはし台	朝日ヶ丘
人口(人)	180,225	15,182	9,491	1,951	6,782	10,102
世帯数(世帯)	78,730	7290	4246	949	2798	4868
平均世帯人員(人)	2.29	2.08	2.24	2.06	2.42	2.08
高齢化率 ¹ (%)	20.8	29.7	24.4	30.2	39.0	23.9

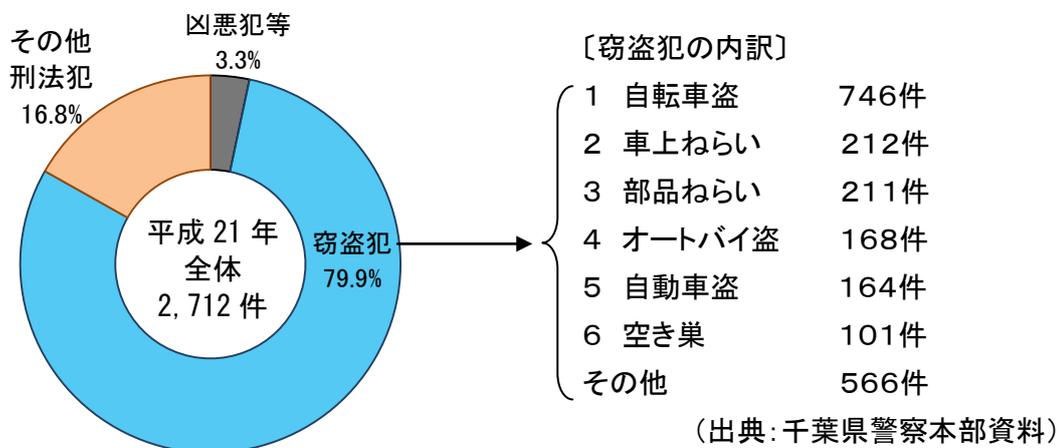
(出典:住民基本台帳)

¹ 総人口のうち、65歳以上人口が占める比率のこと。

5 生活環境・地域交通～安全・安心で人にやさしいまちづくり

- ・災害対策としては、現在、区内各所に防災備蓄倉庫13か所や耐震性井戸付貯水槽2か所、非常用井戸10か所などが設置されています。また、自主防災組織の組織率は約71%（平成22年3月末現在）で増加傾向にありますが、今後更なる向上が求められます。
- ・犯罪の状況としては、自動車、自転車等の盗難、車上ねらい等、窃盗の比率が高い傾向にあります。また、未耕作地、手入れの行き届いていない山林、荒廃した緑地等は生活の安全面からも問題となっており、対策が求められています。

【区内の犯罪発生状況】（平成21年1月1日～12月31日）



- ・南北を結ぶ公共交通はバス路線を中心に整備されていますが、高齢者や障害者などの外出に必要な公共交通サービスは十分ではなく、今後とも、暮らしに密着した交通利便性の確保とあわせ、街中や車内のバリアフリー化を進める必要があります。

6 交流・コミュニティ～地域コミュニティの活性化

- ・区内では148の町内自治会（平成22年3月末現在）が、行事、イベントなど様々な地域活動に取り組んでいますが、価値観や生活様式も多様化し、地域の連帯意識が希薄になるなど、自治会運営が難しくなっている場合もみられます。
- ・一方、自治会活動以外にも、子育て支援や、高齢者の見守り、防犯・防災活動など様々な分野でのボランティア活動が行われており、公益的な活動に対する住民の関心が高まっています。
- ・活力あるまちづくりには、区民の主体的な地域づくりへの参画・協力が必要であり、町内自治会やボランティアなどによる活動の輪をさらに広げていくことが求められます。
- ・就労人口の減少への対応や国際化の進行により、外国人市民が増加していくと考えられることから、今後は、言葉の壁や文化の違いを超えてお互いに理解しあうことが一層重要になります。

【区内の外国人市民登録数】（平成22年3月末現在）

総数	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	インドネシア	タイ
3,281	553	1,031	307	55	78
ベトナム	インド	米国	ブラジル	ペルー	その他
59	39	96	412	205	446

（出典：千葉市資料）

7 産業～地域のにぎわいづくり

- 区内では都市近郊型農業が営まれており、経営耕地面積・農家戸数とも市内の約2割のシェアを占めています。北部では酪農・観光農園（苺等）が営まれており、農産物の直売所等では、はなさんはなしょう花産花消²にも取り組んでいます。しかし、農業従事者の高齢化に伴い、農業の担い手の育成が課題となっています。
- 遊休農地の新たな活用方法として、クラインガルテン³などについても、検討する必要があります。
- 製造業は、内陸部に千葉鉄工業団地があるなど、事業所数は6区で最も多いものの、比較的小規模な事業所が多いのが現状です。
- 商業は、国道14号沿いに大規模商業施設等が集積しているほか、主要地方道穴川天戸線、長作町浜野町線沿道の一部区間に、郊外型の商業施設が展開されています。一方、大規模団地の商店街では一部空洞化が進行しており、「買い物難民時代」といわれる状況も生じており、増加する高齢者が気軽に買い物をできる環境づくりが求められています。

市民農園 イメージ写真

花見川団地商店街 イメージ写真

² 本区産の新鮮でおいしい、安心安全な農林水産物等を、区民に消費してもらうこと。一般的には「地産地消」と書くが、本区としての独自の取組みを表現するために、「地」の部分に花見川区を意味する「花」を使って「花産花消」とした。

³ ドイツ語で「小さな庭」の意味。ドイツでは、老後の生き甲斐や余暇の楽しみの創出という役割だけでなく、都市部での緑地保全や子どもたちへの豊かな自然教育などコミュニティ形成の場として200年の歴史がある市民農園が盛んである。

第3章 区の将来像

みんなの力で

川と緑と笑顔が輝くまち 花見川区

本区における将来の都市イメージの中心として、花見川の緑豊かな河川空間をシンボルゾーンとするとともに、地域の人々が守ってきた郷土の文化を次世代に引き継ぎ、暮らしやすい良好な生活環境を創造します。

今後の少子超高齢化や国際化の進展などにも的確に対応するため、年代や文化の違いを超えて、互いに理解し支えあう、ご近所同士のつながりが根付いたまちづくりに取り組みます。

まちづくりは、未来づくりでもあり、地域の連携や行政との協働を通じて、区民が主役のまちづくりを推進することにより、にぎわいと笑顔のあふれる「ふるさと花見川区」の実現を目指します。

花島公園 イメージ写真

区民まつり イメージ写真

第4章 施策の展開

1 豊かな自然と文化が花ひらくまち

- 緑豊かな自然環境を、かけがえのない区民共有の財産として、次世代に引き継いでいきます
- 地域に伝承されてきた行事や郷土芸能などを通し、ふるさと意識を高めます
- 地域の人々が守ってきた、区民の生活に密着した文化財など郷土文化を大切にしていって、地域への愛着心を育みます

(1) 恵まれた自然環境の整備・保全

- ・区のシンボルゾーンとして、区民にうるおいとやすらぎを与える花見川や勝田川とその周囲に広がる恵まれた自然空間を、将来にわたって引き継いでいけるよう、様々な主体と連携して、整備・保全に取り組みます。
- ・河川の自然の営みを活かしながら、本区の風土との調和にも配慮し、多様な河川景観を創出します。

(2) 地域に残る伝統行事の振興

- ・地域の祭りや行事などへの区民参加を促し、地域の伝統的な文化への関心を高め、区民同士の対話を大切にしまちづくりを進めます。
- ・地域に根付いた祭りや伝統行事を次世代に継承していくとともに、情報発信に取り組みます。

三代王神社の神楽 イメージ写真

(3) 地域の文化資産の保全と活用

- ・区民に親しまれてきた、歴史ある文化財を身近に感じて愛着を深め、地域特性を活かした個性豊かな文化の薫るまちづくりを進めます。

2 こどもや高齢者の笑顔が花ひらくまち

- ▶ 様々な人材・団体などと連携し、地域全体で子育てを支える環境づくりを推進します
- ▶ 人々の交流や地域のあたたかなつながりをはぐくみ、地域ぐるみで高齢者の暮らしを支え、高齢者の社会参加を進めます
- ▶ 区民の主体的な健康づくりを支援し、「健康なまち 花見川区」を目指します

(1) 子育てしやすい環境づくり

- ・ こどもや子育て世代を地域全体で支援し、子育てしやすく、安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- ・ 学校、家庭、地域が密接に連携し、次代を担うこどもの「生きる力」、「豊かな心」をはぐくみます。
- ・ 保育所の待機児童の解消に努めます。

(2) 高齢者の心豊かな暮らしづくり

- ・ 暮らしに必要な医療、福祉や商業などの機能を備えた集約型市街地の形成により、区民がともに支えあって、住み慣れた地域で何世代にもわたり暮らし続けられるような「ふるさと花見川区」のまちづくりを進めます。
- ・ 高齢者が社会との絆の中でいきいきと暮らし、地域づくりに参加できるよう、地域の既存施設を有効活用して、こどもと高齢者のふれあいの場づくりを進めます。
- ・ 豊富な知識や技術・技能を持った高齢者の生きがいをづくりを支援し、情報提供や地域活動への参加を促進します。

(3) 健康づくりの支援

- ・ 区民の健康増進に向けて、一人ひとりが正しい生活習慣を身につけるなど、地域全体で健康づくりに取り組みます。

3 安全と安心が花ひらくまち

- ▶ 区民がお互いに協力しあい、地域を守る「安全・安心のまちづくり」を目指します
- ▶ 区民の視点を大切に、誰もが快適に暮らせる、人にやさしいまちづくりを進めます
- ▶ 公共交通網の利便性を確保し、住みよい環境づくりに取り組みます

(1) 地域ぐるみの防災・防犯活動の充実

- ・災害の被害軽減や犯罪の未然防止のために、地域が支えあう安全なまちづくりに向けて、自主防災組織の充実や地域防犯体制の強化を図ります。
- ・区民、地域の防災組織や福祉関係団体などと、行政とのパートナーシップにより、災害発生時の要援護者の保護、支援体制の確立に取り組みます。
- ・地域で取り組む、防災訓練や防犯活動などの活性化を図るため、啓発に取り組みます。

(2) バリアフリー化の推進

- ・超高齢社会への対応や、障害の有無にかかわらず、あらゆる人々が暮らしやすい生活環境を実現するため、区内のバリアフリー化を推進します。

(3) 暮らしに密着した公共交通網の充実

- ・暮らしに密着した利便性の高い公共交通網の充実に取り組み、高齢者や障害者の外出の足を確保し、社会参加や活動しやすい環境づくりを進めます。

防犯ハイキング イメージ写真

花まわる号 イメージ写真

4 心と心のつながりで花ひらくまち

- 区民主体の地域活動を支援するとともに、地域の人材や団体と行政が協働し、区民が主役のまちづくりを推進します
- 年齢や障害の有無、国籍の違いなどにかかわらず、互いに思いやりを持ち、ともに支えあう成熟した地域社会を目指します

(1) 地域活動の活性化と協働の推進

- ・町内自治会、社会福祉協議会地区部会、老人クラブ、子ども会、NPO、ボランティアなどの公益的な活動を促進するとともに、団体間の連携をコーディネートし、地域課題の解決に向けた取組みを支援します。
- ・様々な主体の連携・協力により、生涯学習、スポーツや文化活動、地域行事などの地域活動への参加機会を提供し、区民の新たな力を生み出すとともに、地域づくりに活用します。
- ・地域がはぐくんできた人材・団体などの情報提供を進め、交流促進を図り、区民のネットワークづくりを支援します。
- ・区民と身近な区役所の特性を活かして、区民と行政が連携しながら、地域生活の充実に取り組みます。

ごみゼロクリーンデー
イメージ写真

(2) 思いやりのあるコミュニティづくり

- ・ご近所同士の助けあいなど、思いやりのあるコミュニティづくりを目指し、こども、高齢者、障害者など、それぞれができることで力を出しあい、地域全体で支えあうまちづくりに取り組みます。
- ・外国人市民とのふれあいや交流を通じて、多様な文化を認めあい、相互理解を促進しながら、ともに支えあうまちづくりを進めます。

5 にぎわいと元気で花ひらくまち

- まちのにぎわいと活力を生むために、地域に根ざした産業の発展に取り組みます
- 区民の地元農業への理解を深めるとともに、消費者と生産者の交流機会を支援します
- 様々な主体の地域経済活性化への参画を促進し、地域との連携による施策展開を目指します

(1) 地域産業のブランド力の向上

- ・地域企業、団体など区内の様々な主体の活動や連携を支援することにより、環境の変化や多様な消費者ニーズに対応できる付加価値の高い産業づくりに取り組むとともに、区の特長や地域資源を活かした産業の魅力を再発見しながら、地域産業の情報発信を進め、ブランド力の向上を図ります。

(2) 地域の特性を活かした農業の活性化

- ・既存施設や遊休農地の活用による身近な農業体験の場の提供など、区民が農業とふれあう機会の充実を図ります。
- ・農業生産基盤強化に向けた、次世代の生産者や担い手の組織づくりや様々な活動を支援します。

ふるさと農園 イメージ写真

(3) 地域の商業活動の活性化

- ・地域リーダーの育成や地域課題の解決に向けたコミュニティビジネス⁴の創出支援などを通じて、住民のニーズに応えられるサービスの実現を図り、経済活動の活性化と地域のにぎわいの創出を目指します。

⁴ 地域住民が、地域の課題をビジネスの手法により解決すること。ビジネスの手法をとることから、地域雇用の創出、地域の産業・経済の活性化につながる。